

3 富山県保育士・保育所支援センター

富山県保育士・保育所支援センター（以下センター）は富山県が社会福祉法人富山県社会福祉協議会（以下県社会福祉協議会）に委託運営している。同会施設団体支援課が所轄し、無料職業紹介事業者である富山県健康・福祉人材センターの一組織として人材情報を提供している。センターは平成25年6月3日に開設され、開所日は月曜日～金曜日の8時30分～12時、13時～17時である。「保育士再就職支援コーディネーター」が1人常駐している。

1 センターの取組内容

潜在保育士の再就職支援または保育士としての就業定着支
【富山県保育士・保育所支援センター リーフレット】

援を基本としている。取扱い業務は、再就職支援（マッチング、求人情報の提供、見学・体験の調整手配等）、相談支援（潜在・現職保育士、ほか就職希望者、各保育所からの求人相談）、保育職場説明会、研修の企画・実施、学生への就職支援（県内養成施設へ週1回求人票を送付する等）である。

(1) マッチングの方法

センター業務の中心となっているマッチングは、コーディネーター（保育士資格と幼稚園教諭2種免許保有）が求職者登録をした方を対象に行っている。登録にはできる限り来所を促し、就業開始時期、勤務時間、業務内容に関して希望を聞き取る。希望条件に基づき、コーディネーターが通勤可能な範囲で該当する保育所をピックアップし、求人募集中か、もしくは求人予定がないか、1ヶ所ずつ連絡を取り、募集状況や仕事内容を確認する。次に求職者側に施設見学や就業体験を勧め、保育所を知る機会が得られるよう設定する。さらに求職者、求人側の双方が歩み寄れる条件を提案し、採用へ結びつけている。

【センター受付】



求職相談者が再就職するまで根気強く相談に応じ、可能な限り求人側とコミットする体制づくりに努めている。

(2) 再就職支援研修の実施

保育士として就業の定着と能力の育成を目的とした講座を開催している。平成 25 年度はセンターの企画で 2 回実施した。第 1 回の研修ではストレスマネジメントについて「職場で実践してみる」という声が聞かれた。労働法規の研修は平成 25 年の 7 月～8 月に雇用に関する相談が寄せら

【再就職支援研修会 平成 25 年度実施プログラム】

研修会	主催・共催 ・後援	時間	研修内容 (講義・講演／講師)	人数・参加者 (内訳)
第 1 回 再就職支援研修会 平成 26 年 1 月 17 日(金) 富山県社 会福祉 総合会館 (サンシ ップとやま)	主催:①富山 県、②保育士・ 保育所支援セン ター 共催:①富山県 保育連絡協議会 後援:①富山労 働局、②公共職 業安定所(ハロ ーワーク)、③富 山県社会福祉法 人経営者協議 会、④富山県民 間保育連盟、⑤ 富山県保育士会	9:40 ～ 11:10	講義①『保育士としていき いき働くためのストレスマ ネジメント』 ／臨床心理士	31 人 (潜在保育士 3 人、平成 25 年度紹介採 用保育士 16 人、資格取得 中 1 人、就業 1～3 年未満 の保育士 10 人、保育士会 1 人)
		11:25 ～ 12:45	グループ討議『日々の保 育にお役立ち 保育所保 育指針のポイント』 ／保育士養成施設幼児 教育学科教授	
		13:30 ～ 14:45	講義②『知っておきたい労 働法のポイント』 ／社会保険労務士	
		15:00 ～ 16:30	講演『保育士がいきいき 働く保育園について考え る』 ／保育園を考える親の会 代表	40 人 (保育所関係 者 30 人、養 成施設職員 4 人、学生 6 人)

研修会	主催・共催 ・後援	時間	研修内容 (講義・講演／講師)	人数・参加者 (内訳)
第 2 回 再就職支援研修会 平成 26 年 3 月 18 日(火) 富山県社 会福祉 総合会館 (サンシ ップとやま)	主催:①富山 県、②社会福祉 法人富山県社 会福祉協議会 共催:①富山労 働局、②公共職 業安定所(ハロ ーワーク)、③富 山県保育連絡 協議会 後援:①富山県 社会福祉法人 経営者協議会、 ②富山県民間 保育連盟、③富 山県保育士会	13:30 ～ 16:30	テーマ『保育士の質向上 と定着をめざして！ ～ モデル行動を活用した人 材育成！ その秘訣と は？～』 ①人事育成・職員の何 を育成するのか？ ②これからは、人間力が 差別化の決め手！ ③人間力を向上するた めには.. ④「日本一笑顔に溢れた 保育園」を掲げて蘇生し た保育園 ⑤人間力を高める具体 的なノウハウ”モデル行 動”とは？ ⑥モデル行動の活用法 ⑦人が定着する組織づく り ⑧質疑応答 ／経営コンサルタント	30 人 (社会福祉法 人理事長、保 育所(園)長、 人事担当者 等)

れていたことから取り入れた。労働条件に関して興味関心は持ちながらも、専門的な講話を聴く機会のなかった参加者からは、役に立つ内容であると好評であった。グループ討論では参加者同士が意見交換することでコミュニケーションの向上を図ることができた。講演は『保護者から見た保育士』というテーマで、子どもを預ける親たちは保育士に対してどのような思いを抱いているのかを講話し「保護者の率直な考えが聞けて嬉しかった」との声が寄せられた。

(3) 就業体験の実施

実技研修に代わるものとして、就業体験を実施している。平成 26 年 9 月までの実施分を含め、県内保育所へ保育士有資格者 8 人、保育士資格取得中 3 人の計 11 人が参加した。期間は 1 日体験が 6 回、3 日間体験が 5 回であった。なお、研修先へ潜在保育士が 4 人就職した。就職を希望する保育所への見学は平成 26 年 9 月まで 108 件あった。見学を体験した復職者の声に「支援センターの相談員の方や園長先生、保育士の皆さんにも背中を押してもらったことが復帰につながった」というものがあり所長、同僚となる保育士と話す機会があったことが就業復帰への後押しとなっている。

(4) 就職相談会の実施

実施に当たっては富山県健康福祉人材センターの全職員で対応している。職場説明会は看護、福祉関係との合同開催であるが、保育関連団体 2 団体を含む連携機関は 10 団体に上る。富山県保育士会はセンターと同じ建物（サンシップとやま）にあり、センターの運営に関わる相談等、協力関係を築きやすい。

(5) 求人・求職登録

求人・求職登録（保育士・看護師・栄養士・調理師）は『福祉のお仕事』（福祉人材センターが運営する Web システム）を活用しておりセンター開設と同時期の平成 25 年 6 月から

開始している。求人側は事業所のマイページから求人票を登録し、富山県健康・福祉人材センターで内容をチェックした後、承認をする。平成 25 年から実施しているスカウトサービスは求人票を出した保育所に求職者の情報（氏名、住所等の個人情報を除く）を公開し、採用したい人材についてセンターに照会するサービスである。求職者側はセンターに来所し、窓口で筆記した内容を職員が打ち込み登録完了となる。

2 センター運営の特徴・工夫点

センターの運営主体である県社会福祉協議会が関係を構築してきた保育関係団体との連携がセンター運営の大きな特徴

健康・福祉人材センター	保育関係団体
福祉人材センターのシステム活用：求人・求職の登録/求職者情報の提供（各保育所のEメール配信） イベント時の全職員対応 「福祉とやま」（隔月発行）への記事掲載	保育連絡協議会：職場説明会の後援、研修会の共催 民間保育連盟：職場説明会主催、研修会の後援 富山県保育士会：広報誌、研修ノートでのセンター紹介
労働局・ハローワーク	養成施設
広報活動（リーフレット配布/ポスター掲示） 保育士資格者へのセンター来所の勧奨 職場説明会におけるハローワーク相談コーナーへの相談員派遣	週1回求人票を送付して情報提供を行う 訪問による学生の求職登録依頼、求人状況・内容についての情報収集 登録学生のマッチング

である。富山県民間保育連盟とは職場説明会、富山県保育連絡協議会とは研修会において共催・後援の協力関係にあり、富山県保育士会は広報誌や研修ノートでセンターの紹介記事を掲載している。さらにセンターと同じ建物（サンシップとやま）内にある立地条件も円滑な協力関係に大きな役割を果たしている。

3 センター運営の実績

センター運営事業の実績として平成 25 年度（7 月～）の就職決定者が 87 人、平成 26 年度（～9 月）17 人、累計 104 人だった。同時期の紹介者 123 人との採用率は 85% となり、高い割合で就職に結びついている。

【保育士の採用者数：平成 25 年度 7 月～平成 26 年度 9 月 カッコ内紹介者数】

年度	潜在保育士	現役保育士		保育士 資格無	学生	合計
		公立	私立			
平成 25 年度	32 (32)	1 (3)	11 (13)	3 (3)	40 (55)	87 (106)
平成 26 年度	17 (17)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (17)
合計	49 (49)	1 (3)	11 (13)	3 (3)	40 (55)	104 (123)

4 センター運営の課題

以下の 3 点が運営上の課題として挙げられた。

- (1) 保育所側が求める労働条件と保育士自身が希望する待遇や働き方の違い

- (2) ブランクのある方の再就職の難しさ

- (3) 人材の育成、定着に対する保育所側の意識改革

(1) に関して保育所はフルタイム勤務者を採用したいと考えているが、求職者の多くはパート勤務を希望している。(2) は保育士の多くが、過去の勤務環境とのギャップに悩み、復職に踏み出せないでいる。(3) は保育所における保育士の育成や定着のためには、意識改革を促進する取組が必要となっている。センターは現代の保育環境を踏まえ、保育士と保育所が抱える問題に対してフォローする役割が求められている。

【センター利用者の声】（「福祉とやま2013年11月号」より一部引用）

① 潜在保育士から復職した方

県外の幼稚園で 2 年、保育所で 2 年働きました。富山での仕事は初めてでしたが、支援センターの開設を知り、「ここに行けばなんとかなる」と思いました。支援センターでは条件に見合った保育園の情報を得ることができ、見学もさせてもらいました。仕事を探すのであれば、いろんなところを見るといいですね。見学に気軽に応じてもらえますし、自分に合った保育所との出会いがきっとあると思います。

② センターを利用した保育所所長

せっかく資格を取っても、保育士にならなかった方、結婚や出産など生活環境が変わって辞められた方、そういう方たちの中で、もう一度やってみようという方がいるとすごくうれしいし、助かります。